

ムーンショット目標8 AMAGOIプロジェクト
「海上豪雨生成で実現する修通豪雨被害から解放される未来」
「雪雲制御に係る予備的な実証実験」

第1回説明会 議事録

1. 日 時： 2025年10月6日(月) 15時～16時
2. 場 所： くろべ市民センター多目的室2-7 および オンライン
3. 参加者： 14名
4. 議 事：

(1) はじめに

プロジェクトマネージャ： 小槻峻司（千葉大学 教授）

(2) 実験内容の説明

課題推進者： 安永数明（富山大学 教授）

※ 説明資料：【資 料】市民説明会_第1回.pdf

(3) 質疑応答

- Q. 説明にあった過去に実施した実験での説明会には、どんな参加団体が参加したか？ 一般市民も参加していたか？
自治体としてどこまで展開するのかの参考にしたい。
- A. 直接関わっていないので正確には把握はできていませんが、住民の方々を含めて行ったようです。今回は、実験場所近隣で事業を行っている方々や、漁業・農業関係者の方にむけても、丁寧に説明したいと思っています。
- Q. 説明にあった過去に行われた実験の場所である群馬県や新潟県での成果や結果を知ることはできるか？
- A. 気象庁気象研究所が行った実験については、報告書（村上正隆・藤部文昭・石原正仁 編集、「人工降雨・降雪研究の最前線」、気象研究ノート第231号、日本気象学会）や論文として公開されている。概略は、一冬ドライアイス撒き続けたら、20%または30%（瞬間）の降水の増加が見込まれたという結果だった。今回の実験で行う1回や2回のドライアイスの散布では、20%や30%の影響はでない。
- Q. 実験周知の方法として、県や地方自治体の広報誌などで実験内容などをお知らせするようなことをご検討いただけるといいのではないか。
- A. 広報の方法（プロセス）として、次のように考えています。
- ①利害関係者にまず説明をする
計画の詳細を練って国立研究開発法人科学技術振興機構（ムーンショット目標8の推進団体）の承認を得る。
 - ②報道機関への周知を含めて、広く広報する
広げていくタイミングで、地方自治体での広報誌等への記載もご検討していただく。行政機関への説明した上で、報道機関への説明等に展開していく。

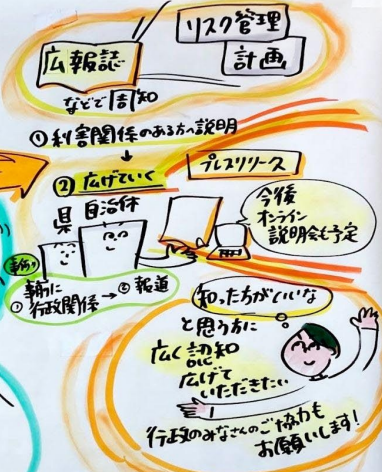
2025.10.6

富山湾における雪雲制御に係る 予備的な実証実験に関する説明会

感想・質問

Q. 以前実施した説明会の参加は一般市民も？
A. 当時は市民も参加
Q. この後どう展開していく？
A. 今朝開く
Q. 群馬や新潟の成果、結果を知らせてほしい？
A. 論文、結果は測っています
Q. 影響結果は測っています？
A. 影響結果は測っています

Q. 群馬や新潟の成果、結果を知らせてほしい？
A. 論文、結果は測っています
Q. 影響結果は測っています？
A. 影響結果は測っています
Q. 20%瞬間的には30%も
A. 1回や2回はあってもいい



Q. シーソーの様子を確認できる？

陸地で、ロープは見える可視性
おいてる様子は小さく見えない

Q. 知るべき関係者、黒部内水関係に知らせたい？

風向、黒部周辺の水源には影響、小さい予定

以上